

住化・住武相談室だより

第1号 1月10日

発行 住友化学・住化武田農薬
お客様相談室 0120-677-088

発行責任者 古津 昇

住化・住武 相談室だより 発刊にあたりご挨拶

住化武田農薬株式会社

取締役 営業本部 営業本部長
野口 等



2002年10月に、住友化学が(株)アグロスを統合して製剤メーカーの仲間入りをした際に、農業現場での当社農薬に対するご意見を直接お聞きする機会を増やし、現場により密着した技術サービスを実践することを目的として「お客様相談室」を設置致しました。

当初は一度も電話の鳴らない日もありましたが、今では2,000件(04年度)を超えるお問い合わせを頂くようになり、スタッフ一同は嬉しい悲鳴を上げています。

昨年の10月に住友化学と住化武田農薬は国内の営業体制を統合し商系専門メーカーとしてのスタートを切りました。この機会に相談室としては住化アグログループ剤に関する新知見情報や日頃のご相談の中でより多くのお客様と共有すべき情報をピックアップして自ら情報発信を行い、技術サービスのバージョンアップを目指して「相談室だより」を月に一回のペースで発刊することに致しました。

迎
春



食の安全・安心が消費者のキーワードになって来ている中、農薬の適正使用に関しても、2003年4月の農薬取締法改訂に伴い農薬製造業者のみならず、流通業者・使用者への規制も行われるようになりました。また、日本の農業生産構造の変化に伴い、省力化・効率化をデザインしてきたことで、より専門的な農薬使用の知識が要求されるようになりました。今や、農業現場では、農薬に関する、疑問・質問が噴出してきております。

住友化学アグログループは日本の農業現場でのトータルソリューションを事業ビジョンとして展開を図ってきておりますが、その根幹は技術に立脚した「お客様サービス」だと考えております。そこで「お客様相談室」の一層の充実を図はかっていく所存でありますので、何卒皆様方の更なるご支援の程よろしくお願い申し上げます。

農薬ラベル
について

作物の適用拡大とラベル

農薬のラベルには、ご存知の通り有効年限（通常3～4年）が記載されています。その有効年限期間内に、新たな作物が適用拡大される場合があります。特にこの3月以降は、マイナー作物への登録拡大が非常に増えると予想されます。

また、一方で農薬は農薬取締法（以下、農取法）によりラベルの表示に従って使用することが義務付けられています。このため、適用拡大された作物でも、まだラベルに記載されていない場合は、そのままでは使用できません。そこで、ラベルに未記載の適用拡大作物に使用する場合についてご説明いたします。

1. 農薬の購入者は、製品ラベルに記載されていない適用拡大作物に使用する場合には、農薬販売所（農協・小売店など）に登録内容を追加した新ラベルを要求します。
2. 農薬販売所は、販売メーカーに新ラベル（新しい適用拡大内容のみ記載）を要求します。
3. メーカーは、適用拡大になった新ラベ

ルを農薬販売所に送付するとともに、商品へ新ラベルの貼付を委託します。

4. 農薬販売所は、メーカーの委託に基づき新ラベルを容器又は包装に貼付（糊付け、輪ゴム止め等）して販売して頂くことになります。

以上のように、使用する作物の登録内容がラベルに記載されていないと使用できないことになります。

なお、ラベルに関してご注意戴きたい点を以下に列挙いたします。

1. 新ラベルは、新たに適用拡大された作物に使用する場合のみに必要で、旧ラベルに記載のある作物は、そのままご使用できます。

2. また、一部に適用作物の削除、使用方法の制限（使用回数の削減、収穫前日数の増加）などの登録変更があった場合でも、ラベルの記載内容通りに使用した場合は、農取法上問題とはなりません。

以上の点を十分ご認識頂き、農薬適正使用の遵守をよろしくお願いいたします。IT

そば談義

最近、そば打ちに嵌っている。とくに、今の時期は「新そば」が美味しい。いつも、岩手の粉屋さんからそば粉を取り寄せている。そして、食べて頂ける方なら迷惑を考えず家に招き食べて頂く。また出張してそばを打ったりしている。なぜ、こんなに「そば」に嵌ってしまったのか解らないが、多分自分で打ったそばをその場で茹でてお出した時、「旨い」云ってくれるその一言が心の満足感となり、凝りもせず、また、そばを打つのだろうと思う。また、同じそば粉でも、毎日が違

う顔を持っていることも飽きない理由だろう。雨の日や晴れの日、寒い日や暑い日で微妙にそばを打つ感触が違って来る。そんな、ことを考えていると、相談室も同じようなものかと思えてくる。お客様に親身になって丁寧に答えていると、時々まお礼の電話が掛かってくる。あの時のアドバイスでうまくいきました「ありがとう」と一言いってくれることがある。それは、そばを出したとき不揃いなそばでも「旨かったありがとう」といってくれた言葉に似ている。その言葉がほしくて、日々がんばっているような気もする。

(FN)

知って得する防除の仕方

台風と被害について

今年は日本に上陸した台風が10個と史上最高で、各地に深刻な風水害の被害を与えました。

秋冬期野菜のレタス・ハクサイ・キャベツ等が風水害の直接の被害を受け、その影響で病害による被害も多く発生しております。栽培農家さんから台風前後の防除のお問合せを受けていますのでここでご紹介致します。

A：台風後ハクサイ(6~7葉期)にナレート水和剤を使用したいが薬害の心配は？

B：バリダシン液剤5のハクサイの使用方法を教えてほしい？

C：10枚以上葉が出ているがスターナ水和剤の薬害は？

D：ダコニール1000をハクサイで使用したいが予防効果か治療効果か？

以上は台風で葉が傷つき病原菌の侵入が心配であるが、効果薬害について幼苗期



や収穫期との関係で大丈夫かどうかについてお問合せを頂いております。

ハクサイ・キャベツでは軟腐病・黒腐病が重要な病害ですが発病してからの防除では十分な効果は得られません。予防的な防除が重要で、結球初期からの防除と台風前後の散布が必要です。

薬剤はスターナ水和剤とその混合剤(マテリーナ水和剤・ソータルWDG・テレオ水和剤・ナレート水和剤)およびバリダシン液剤5が軟腐病病・黒腐病・株腐病の同時防除が可能で、高温時や幼苗期でもキャベツなどの薬害が少ない薬剤です。(TN)



ご質問

農薬というと、畑や水田および果樹園などで使われるものだと思いますが、学校の校庭とか病院、工場

の敷地内など、それ以外の場所でたとえば、ポウフラ・毛虫退治に使用してもいいのでしょうか？教えてください。

お答え

農薬は、使用できる作物がそれぞれの農薬ごとに決められています。

樹木類・花き類に登録のある農薬であ

れば、校庭などの樹木や花きの毛虫退治に使用できます。但し、容器や袋に使用方法や使用時の注意事項が書かれていますので、必ずそれに従ってくだ

さい。
ボウフラは、水溜りなどに生息するものなので、この防除には農薬は使用で

きません。この場合は、八工、蚊などの衛生害虫防除用の薬剤をご使用ください。(SH&IT)

雑草よもやま話 (1)

雑草とはどのような植物でしょうか。雑草の定義については多くの学者が提言しており、伊藤教授は「雑草は人間の攪乱の内側で自然に発生する植物群であり、栽培植物は人間の手助けが無ければ繁殖しない植物群」とされています。また、雑草は山野草、人里植物、作物(栽培植物)のすべてにまたがった植物群とされています。

植物の種しゅによっては明らかに雑草と呼べる植物もありますが、大豆畑に生えた麦は雑草ですし、一般的には雑草と呼ばれる植物も食用や観賞用に栽培すれば立派な作物です。簡単に考えれば「雑草は、人間の生活の場に自然に発生してくる望まない植物」と言えるでしょう。

雑草は自然に生えてきて、しかもたくましく生育します。「雑草のようにたくましい」と言われる所以ですが、いつも同じ種の植物が生えてくるわけではありません。その場(環境)で最も育ちやすいものが生えてくるのです。よく見れば季節や場所によ



って発生してくる雑草の種類が異なることに気が付かれるでしょう。「名も無き雑草」などと言われますが、名前が無い雑草はありません。「名も知らぬ雑草」と言うべきです。

農業は雑草との戦いと言われ、農耕地や庭園に雑草が生えないようにしたいと願っている方は多いでしょう。しかし、上述のように雑草は人間の生活の場に生えてくる植物です。開墾したばかりで雑草も生えない土地では、作物も生育しないことが知られております。

雑草は作物と太陽の光や肥料分、水分を取り合って作物の生育を阻害したり、病害虫の棲家となったり、景観を悪くしたりするため、嫌われ者の代表になっておりますが、最近では遺伝資源としての有用性が見直されたり、生物の多様性保持の観点から、徒に雑草をすべて除去することの是非が議論されております。(IK)

毎月の相談内容から

ご質問

イチゴのハスモンヨトウ(12月まで発生する)にプレオフロアブルを使いたいたがミツバチに対する影響はどうですか。又農薬のミツバチ等天敵に対する影響はどう決

めるのですか？

お答え

ミツバチやマルハナバチはトマト・イチゴ栽培では無くてはならない重要な有用昆虫です。これらの有用昆虫や天敵を上手に活

用するため影響の小さい農薬の使用が必要です。
農薬の影響を調査するのは三重大学など公的試験機関が実際に放飼して、影響を調べ

ます。プレオフロアブルはこれらの試験でミツバチに影響はほとんどありません。翌日放飼をすれば安全です。(TN)

新農薬紹介

プレオフロアブル

今月の推進農薬は住友化学が2004年に登録を得たプレオフロアブルをご紹介します

。殺虫剤開発は圃場の虫を皆殺しにする薬剤が求められてきましたが、害虫防除と同時に有用な昆虫や天敵まで殺して自然界のバランスを崩してしまう恐れがあります。

最近の農薬開発は、必要な病害虫のみを選択して防除できる薬剤や、天敵や有用昆虫には影響を与えない薬剤が登録されてきております。これらの薬剤は天敵を残すため急激な害虫の復活(リサージ)を抑えることができます。

プレオフロアブルは既存の有機りん剤、カーバメート剤、合成ピレスロイド剤、IGR剤とは全く異なる作用性を持つ新しいタイプの殺虫剤です。効果のある害虫はコナガ、オオタバコガ、ヨトウムシ類等の鱗翅目、ミナミキイロアザミウマ等の総翅目害虫です。また、人畜・魚類に安全性が優れ、天敵の寄生蜂類、ハナカメムシ類、カブリダニ類、クモ類や花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチ等には影響の少ない薬剤です。

プレオフロアブルの特長



- 1.新しいタイプの殺虫剤で、既存剤で抵抗性が発達した害虫に対して高い効果を発揮します。又、経口及び経皮投与のいずれかの方法でも効果を発揮します。
- 2.優れた殺虫活性があり、鱗翅目及び総翅目害虫に対し速効的に作用します。中～老齢期幼虫に対しても高い効果を発揮します。
- 3.優れた耐雨性、残効性があり安定した効果が持続します。

4.天敵・有用昆虫に対し影響が少ない薬剤です。天敵を利用した防除体系に適しており、また放花昆虫であるミツバチやマルハナバチを組み込んだ栽培も安全にご使用出来ます。

5.最後に、安全性・作業性にも優れたフロアブル剤です。例えば使用者に対して刺激性や臭いが少なく、また収穫物に対する汚れも少なくかつ希釈しやすい製剤です。

今年の害虫防除にお奨めいたします。(TN)

登録情報

[平成16年12月8日付け登録]

ショウリョクジャンボ

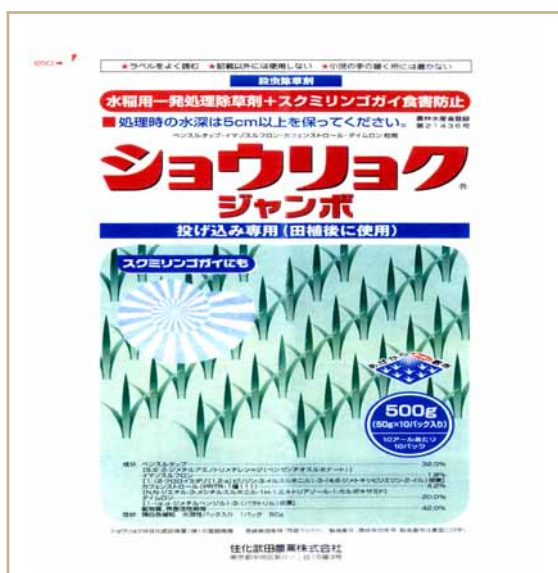
従来から販売しているクラッシュEXジャンボに、ルーバン(スクミリングガイ食害防止用殺虫剤)を混合した、初めての「殺虫除草剤」で、平成17年度より九州地区限定で販売を予定しています。

ヒエの2葉期までに散布することにより、スクミリングガイ(ジャンボタニシ)防除とともに、除草作業を同時に完了する、名前通りの「省力剤」です。

ゴヨウダジャンボ

2成分で一年生雑草から多年生雑草を一網打尽に「御用だ」とする、ジャンボ剤です。最近問題となっている抵抗性雑草にも早めの散布で効果を発揮します。

ヒエの2葉期までの散布が必要です。「ゴヨウダ」だから、「5葉期まで効く」と勘違いすると「誤用だ」になりますので、ご注意ください！ (IT)



I - 農力会員の皆様へお願い

「住化・住武相談室だより」にご意見やご要望をどしどしお寄せください。本紙通して、会員の皆様でお互いが情報交換をしていただき大いに「住化住武相談室だより」を盛り上げて頂ければ幸いです。

[編集後記]

今年から「相談室だより」を毎月1回のペースで発行していきます。本紙編集スタッフは相談室の4名です。よって、肩肘張らずに毎月発行していくことをモットーにやっていきますので、皆様も「相談室だより」を気楽にご覧下さい。

主な記事の内容は、相談室へのお問合せから、現場で何が起きているのか、どんな情報を要望しているのか考え、それに即したホットな話題を提供したいと思います。